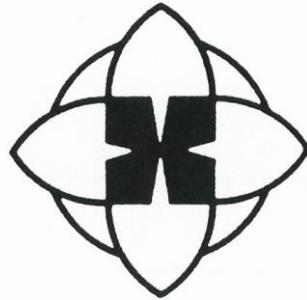


令和6年度

運営に関する計画



最終評価

令和7年3月

大阪市立矢田北小学校

1 学校運営の中期目標

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7（2025）年度の教育アンケート項目「楽しく学校に通っている」に、肯定的に答える児童の割合を92%以上にする。

R4 84.7% R5 91.0% R6 88.8%

- 令和7（2025）年度の教育アンケート項目「学校のきまりを守っている」に、肯定的に答える児童の割合を92%以上にする。

R4 91.9% R5 92.4% R6 90.6%

- 令和7（2025）年度の教育アンケート項目「相手の気持ちを考えて行動できる」に肯定的に答える児童の割合を88%以上にする。

R4 85.4% R5 84.7% R6 91.8%

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7（2025）年度の小学校学力経年調査の結果、国語・算数の全24観点のうち、12観点以上が大阪市の平均を上回るようにする。

R4（8観点） R5（6観点） R6（13観点）

- 令和7（2025）年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。

R4 49.1% R5 80.8% R6 75.5%

- 令和7（2025）年度の教育アンケートの「外で遊んだり、運動したりすることが好きである」の項目について、肯定的に答える児童の割合を90%以上にする。

R4 91.9% R5 89.0% R6 83.2%

- 「手洗い・（うがい）週間」を実施し、アンケートの手洗い・うがいチェックで「せっけんで手を洗った」と答える児童の割合を95%以上にする。

R4 91.4% R5 95.1% R6 95.7%

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7（2025）年度の教育アンケート項目「日々の授業の中で、パソコンやタブレットを使い、学習することができている。」に肯定的に答える児童の割合を92%以上にする。

R4 88.4% R5 82.6% R6 89.2%

- 令和7（2025）年度の教育アンケート項目「進んで読書をしている」に、肯定的に答える児童の割合を70%以上にする。

R4 54.8% R5 59.3% R6 60.1%

- 令和7（2025）年度の教育アンケート項目「学校は、家庭・地域等と連携・協働した教育を推進している。」に肯定的に答える保護者の割合を90%以上にする。

R4 93.4% R5 87.4% R6 95.1%

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小学校）

- 令和6年度小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を **87%以上**にする。
- 令和6年度末校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 令和6年度末校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

学校の年度目標

- 令和6年度末校内調査の教育アンケート項目「楽しく学校に通っている」に、肯定的に答える児童の割合を **92%以上**にする。
- 令和6年度末校内調査の教育アンケート項目「学校のきまりを守っている」に、肯定的に答える児童の割合を **93%以上**にする。
- 令和6年度末校内調査の教育アンケート項目「相手の気持ちを考えて行動できる」に肯定的に答える児童の割合を **86%以上**にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小学校）

- 令和6年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、**40%以上**にする。
- 令和6年度の小学校学力経年調査における国語及び算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より **0.05ポイント**向上させる。
- 令和6年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を **80%以上**にする。
- 令和6年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を **60%以上**にする。
- 令和6年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を **75%以上**にする。

学校の年度目標

- 令和6年度の小学校学力経年調査の結果が、国語算数の全24観点のうち、**10観点**が大阪市の平均を上回るようにする。
- 教育アンケートの「外で遊んだり、運動したりすることが好きである」の項目について、肯定的に答える児童の割合を **80%以上**にする。 R4 73.5%
- 「健康週間」を実施し、健康チェックで肯定的に回答すると答える児童の割合を1学期のアンケートの結果より2%向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小学校）

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く）
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を60%以上にする。（R5 55.0%）
 - ※基準1・・・1ヵ月の時間外勤務が 45時間以下
 - ・・・1年間の時間外勤務が360時間以下

学校の年度目標

- 学習者用端末でスクールライフノートの「心の天気」を1日1回以上入力し、月間使用率をあげ、児童の心情や生活の状態を可視化し、児童理解を深め、指導に生かす。
- 令和6年度学校アンケート「学校や家ですすんで読書をしている」に、肯定的に答える児童の割合を60%以上にする。
- 令和6年度 学校アンケート「学校は、家庭・地域（見守り活動、読書活動支援、地域交流行事等）等と連携・協働した教育を推進している。」に肯定的に答える保護者の割合を85%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括（令和6年）

創立50周年を来年度に控え、日々の教育活動の推進とともに地域との連携を深めつつ、充実した活動的な1年となった。重点としてきた「学力保障」・「集団の育成」に向けた取組を進める中で、学力向上やあいさつ児童の増加など、一定の成果もあった。不登校児童に関しては、改善した児童もいたが、新たに不登校となる児童もいる。また、外国籍児童の増加など、学力保障にむけての課題もある。

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標(小学校)

○令和6年度小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を87%以上にする。

⇒ 達成(74.5%→80.8%→88.9%)

○令和6年度末校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

⇒ 達成(4.17→8.97→8.38) 6人→14人→14人

○令和6年度末校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

⇒ 達成(50.0→40.0→50.0) 4名は改善したが、新たに4名増加

毎学期いじめアンケートを実施した他、日々の学級指導による担任による声かけ、タブレットによる相談機能の活用等により、未然防止、早期発見、早期解決に努めた。軽微なものをすばやく発見し、すぐ対応することでいじめ重大事案にならないように努力している。経過観察が必要な案件もあるが、無事解決に至っている。

現在不登校・不登校傾向のある児童は全体で14名と昨年度と同数である。改善した児童は4名いるが、新たに登校しにくくなる児童や不登校傾向の児童が転入してくるケースもある。保護者の考え方も多様化し、「無理に行かせません」「学校へ行かせる意味がない」と様々な価値観があるので、対応に苦慮している。また、家庭環境が安定せず、引き続き関係機関と協力し、見守りを続けていかなければならない児童も多く在籍している。高学年に進級し、「学校を休む」=「学習の遅れ」という負のスパイラルに陥ってしまうとさらに不登校傾向が悪化するため、今後、スクールカウンセラーやSSW、区役所の子どもサポートネットなど、関係機関との連携を深め、よりよい支援を探りつつ支援を続けていく。加えて、外国にルーツのある児童も増えつつあり、言語の壁で、学力保障に支障をきたすことが懸念される。日本語指導を受けている児童は現在5名であるが、増加傾向である。

学校の年度目標

○令和6年度の学校アンケート「楽しく学校に通っている」に、肯定的に答える児童の割合を92%以上にする。

⇒ 未達成(84.7%→91.0%→88.8%) - 2.2

○令和6年度の学校アンケート「学校のきまりを守っている」に、肯定的に答える児童の割合を93%以上にする。

⇒ 未達成(91.9%→92.4%→90.6%) - 1.8

○令和6年度の学校教育アンケート「相手の気持ちを考えて行動できる」に肯定的に答える児童の割合を86%以上にする。

⇒ 達成(85.4%→84.7%→91.8%) + 7.1

「楽しく学校に通っている」の肯定的回答は少し下がったが、概ね90%近くの数値を示しているので大変嬉しく感じている。日頃より教職員が児童の気持ちに寄り添い、楽しい学校になるよう集団作りに取り組んだ成果であると考えている。また、「きまり」に関しては、生活目標の設定やあいさつ運動等、ルールを守るということについて、その意味や自分の行動について振り返るよう指導した。あいさつについては、向上したが、きまりを守らない部分も少しずつ増えてきている。保護者の価値観や意識変化があり、染髪やピアス等、学校のルールに協力されない事案が増加している。引き続き協力を求めている。今後も道徳教育や人権教育、課内実践等を通して、「相手の気持ちを考えて行動すること」や「心を耕す教育」を推進していく。

次年度も継続して取り組み、本当の意味で行動に移せる児童の割合を増やすことを目指す。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小学校）

○令和6年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、**40%以上**にする。

⇒ **達成**(32.0%→42.5%→47.8%) +5.3

6年(40.7) 5年(38.1) 4年(50.0) 3年(62.5)

○令和6年度の小学校学力経年調査における国語及び算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より**0.05ポイント**向上させる。

⇒ **未達成** 6年国(-0.04) × 5年国(+0.07) ○ 4年国(+0.04) ×

⇒ **未達成** 6年算(+0.12) ○ 5年算(-0.15) × 4年算(+0.26) ○

○令和6年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を**80%以上**にする。

⇒ **未達成**(70.4%→69.7%→76.4%) +6.7

6年(59.2) 5年(90.5) 4年(64.2) 3年(91.7)

○令和6年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を**60%以上**にする。

⇒ **達成**(49.1%→80.8%→75.5%) -5.3

6年(66.6) 5年(76.2) 4年(67.9) 3年(91.6)

○令和6年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を**75%以上**にする。

⇒ **未達成**(73.5%→69.7%→71.8%) +2.1

6年(73.9) 5年(74.1) 4年(55.6) 3年(75.0)

「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」については、2年連続で大きく伸びた。授業の中で話し合う場面を多く取り入れた成果であるとする。今後も「主体的・対話的で深い学び」を意識した学習活動を進めていく。

国語及び算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較した結果、算数に関しては、2学年向上できた。国語については、2学年未達成であったが、数値的には向上している。引き続き、個に応じた丁寧な指導を続けるとともに授業力の向上に取り組む。

理科に関しては、実験・観察等を丁寧に行い、「発見する喜び」「予想する期待感」を求めるように授業を工夫してきたため、全体として向上した。理科教育推進校として、理科補助員と連携し、実験・観察の準備を効率的に行い「なぜだろう」「どうしてだろう」の疑問について、じっくり考える時間を確保し、効果的な実験・観察の時間を持たせたためである。また、校内自然環境を整備し、生き物に対する興味関心を喚起させ「生物多様性」や自然保全の大切さを実感させる取り組みを進め、理科の面白さを追求した成果であるとする。

外国語（英語）に関しては、どの学年も大幅にアップした。楽しく英語に触れる機会等を増やし、C-NETとの連携を深め、授業を改善した成果であるとする。

運動に関しては、なわとび集会やランランタイム、中学校の先生による指導等の取り組みにより、成果が出た。一輪車や竹馬の整備や鉄棒下に芝生を引く等、運動できる環境の整備も引き続き進め、体力向上を目指していきたい。

学校の年度目標

○令和6年度の小学校学力経年調査の結果が、国語算数の全24観点のうち、10観点が大阪市の平均を上回るようにする。

⇒ 達成（8観点→6観点→13観点）

○令和6年度の学校アンケートの「外で遊んだり、運動したりすることが好きである」の項目について、肯定的に答える児童の割合を90%以上にする。

⇒ 未達成（91.9%→89.0%→83.2%） - 5.8

○「手洗い週間」を実施し、手洗いチェックで「せっけんで手を洗った」と答える児童の割合を1学期のアンケートの結果より2%向上させる。

⇒ 達成（90.9%→91.4%） + 0.5

参考「ぶくぶくうがい」（81.4%→82.9%） + 1.5

参考「ろうかはあるく」（95.7%→95.6%） - 0.1

学力については、今後も研究教科を設定し、教育センターや教育委員会のアドバイスを受けながら、授業力の向上に努めた。また、矢田北タイムや漢字検定、図書館の充実、読書活動（読み聞かせ）やデジタルドリルの活用をさらに進め、引き続き、基礎基本の定着に取り組んでいきたい。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小学校）

○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く)

⇒ **未達成** 達成率は7.0のため、未達成 年間を通して7割程度が使用している。

○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を60%以上にする。

※基準1・・・1ヵ月の時間外勤務が 45時間以下

・・・1年間の時間外勤務が360時間以下

⇒ **達成** (R5 55.0%→61.9%)

目標の8割以上が使用の目標値には届いていないが、全体として7割の児童は活用している。カウントの仕方等を教育委員会とも意見交換を進め、今後も引き続き ICT の活用に積極的に取り組んでいきたい。ICTを活用した家庭学習に関しては、学年の実態に応じて、できていない学年もある。活用事例の研修などを進め、取り組みを強化していきたい。保健の「手洗い」に関しては、概ね90%を超えており、定着していると考ええる。

教職員の働き方改革（勤務時間の削減）については、目標を達成できた。引き続き取り組んでいきたい。

学校の年度目標

○学習者用端末でスクールライフノートの「心の天気」を1日1回以上入力し、児童の心の状態や日々の生活の状態を可視化し、児童理解を深め、指導に生かす。

⇒ **未達成** 入力率は、(71.9%→80.9%→72.9%) - 8.0

○令和6年の学校アンケート「学校や家ですすんで読書をしている」に、肯定的に答える児童の割合を60%以上にする。

⇒ **達成** (54.8%→59.3%→60.1%) + 0.8

○学校アンケート「学校は、家庭・地域（見守り活動、読書活動支援、地域交流行事等）等と連携・協働した教育を推進している。」に肯定的に答える保護者の割合を85%以上にする。

⇒ **達成** (95.3%→93.4%→87.4%→95.1%) + 7.7

「心の天気」に関しては、子どもの安心・安全のため、継続した取り組みを進める。読書に関しては、読書通帳、読み聞かせ等の取り組みを進めた結果、0.8ポイントの向上があった。引き続き、「ほっと（本と）スペース」の活用や「読み聞かせ」読書通帳等の取り組みを進め、読書環境の充実に努めたい。ホームページに関しても保護者メールと連携し、わかりやすいホームページを目指し、情報発信を進めていく。

大阪市立矢田北小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標】安全・安心な教育の推進</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <p>○令和6年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 87%以上にする。</p> <p style="text-align: center;">R4 74.5% ⇒ R5 80.8% (+6.8) ⇒ R6 88.9% (+8.1)</p> <p style="text-align: center;">R5年度 3年: 89.3% 4年: 77.8% 5年: 77.8% 6年: 78.3%</p> <p style="text-align: center;">R6年度 3年: 83.8% 4年: 92.9% 5年: 90.5% 6年: 88.9%</p> <p>○令和6年度の校内調査において、不登校児童の在籍比率を 前年度より減少させる。</p> <p style="text-align: center;">R4 4.17% ⇒ R5 8.97% (+4.90) ⇒ R6 8.38% (-0.59)</p> <p>○令和6年度の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を 増加させる。</p> <p style="text-align: center;">R4 50% ⇒ R5 40% (-10.0) ⇒ R6 67% (+23%)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○令和6年度の校内調査の教育アンケート「楽しく学校に通っている」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合を 92%以上にする。</p> <p style="text-align: center;">R4 84.7% ⇒ R5 91% (+6.3) ⇒ R6 88.8% (-2.2)</p> <p style="text-align: center;">R5年度 1年: 100% 2年: 100% 3年: 85.2% 4年: 85.0% 5年: 100% 6年: 72.7%</p> <p style="text-align: center;">R6年度 1年: 90.9% 2年: 93.1% 3年: 100% 4年: 72.4% 5年: 80.0% 6年: 96.3%</p> <p>○令和6年度の校内調査の教育アンケート「学校のきまりを守っている」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合を 93%以上にする。</p> <p style="text-align: center;">R4 91.9% ⇒ R5 92.4% (+0.5) ⇒ R6 90.6% (-1.8)</p> <p style="text-align: center;">R5年度 1年: 92.8% 2年: 95.9% 3年: 81.4% 4年: 94.7% 5年: 100% 6年: 90.9%</p> <p style="text-align: center;">R6年度 1年: 96.9% 2年: 89.7% 3年: 100% 4年: 86.2% 5年: 80.0% 6年: 88.8%</p> <p>○令和6年度の校内調査の教育アンケート「相手の気持ちを考えて行動できる」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合を 86%以上にする。</p> <p style="text-align: center;">R4 85.4% ⇒ R5 84.7% (-0.7) ⇒ R6 91.8% (+7.1)</p> <p style="text-align: center;">R5年度 1年: 89.3% 2年: 95.8% 3年: 73.1% 4年: 80.0% 5年: 83.3% 6年: 86.3%</p> <p style="text-align: center;">R6年度 1年: 93.9% 2年: 93.1% 3年: 100% 4年: 86.2% 5年: 94.8% 6年: 85.1%</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>道徳教育や人権教育（外国人教育、特別支援教育、平和教育など）の充実を図り、互いの考えを交流し合い、命や人権の尊さについて考え、良好な人間関係を目指そうとする集団を育成する。</p> <p style="text-align: center;">（道徳教育・人権を尊重する教育・インクルーシブ教育・多文化共生教育の推進）</p> <p>指標 (1)年間を通して道徳教育を行い、道徳的価値理解だけでなく自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考える学習を通して道徳的な態度を養う。</p> <p>(2)年間を通じて行われる平和学習、課内実践（民族講師・老師などとの交流）、特別支援理解教育などを実施し、各学年が学び取ったことを交流する場を<u>年に一回以上</u>設定する。</p> <p>(3)人権学習週間を設定し、「ひと・いのち（ひと・ぬくもり）（ひと・つながり）」などを活用した授業や「いじめについて考える」授業を<u>年に3回以上</u>実施する。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>毎月生活目標を設定し、各学期に強調週間を設け、全教職員で学校のきまりを指導する。</p> <p style="text-align: center;">（問題行動への対応・安全教育の推進）</p> <p>指標 ・<u>毎月</u>生活目標を設定し、<u>各学期</u>に強調週間を設け、全教職員で学校のきまりを指導する。グリーティングメダル等を活用し、日頃からあいさつできる習慣を身につけさせる。（見守り隊の方や来校者、職員室への入り方など）</p> <p style="text-align: center;">（令和6年度も、あいさつを重視して指導する）</p>	A
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>様々な特別活動の場で、児童一人ひとりが活躍できる場を設定し、達成感を持たせ自尊心を高める。</p> <p style="text-align: center;">（キャリア教育の充実）</p> <p>指標 ・各学級、学校行事、児童会活動、集会活動などで、発表する場を設定する。</p>	A
<p>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>子どもの発達段階に応じてキャリア教育を推進し、各学年で文化的・体験的な学習を実施する。</p> <p style="text-align: center;">（キャリア教育の充実）</p> <p>指標 (1)各教科において<u>年間</u>通じてキャリア教育を行う。</p> <p>(2)各学年が体験活動を計画・実施し、全校児童でも芸術活動を実施する。</p> <p style="text-align: center;">（各学年の社会見学、キッズニア甲子園での職業体験、外部講師を招いての出前授業、劇や音楽鑑賞など）</p>	B
<p>取組内容⑤【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>「心の天気」「相談機能」等を活用し、児童の実態把握に努め、指導に生かす。</p> <p>スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携を深め、不登校児童に対する理解を深めるとともに、安心・安全な教育環境を構築する。</p> <p style="text-align: center;">（問題行動への対応・安全教育の推進）</p> <p>指標 ・令和6年度の校内調査の教育アンケート「楽しく学校に通っている」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合を<u>92%以上</u>にする。</p> <p style="text-align: center;">R4 84.7% ⇒ R5 91% (+6.3) ⇒ R6 88.8% (-2.2)</p>	B

取組内容⑥【基本的な方向！安全・安心な教育環境の実現】

不登校児童（未然防止を含む）に対応するために、学校として組織的に対応する体制を構築する。関係諸機関との連携を密にし、多面的・多角的な支援を行う。

（問題行動への対応・安全教育の推進）

B

指標 ・令和6年度末校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

R4 4.17% ⇒ R5 8.97% (+4.90) ⇒ R6 8.38% (-0.59)

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

全市共通目標（小学校）

- 「いじめ（いのち）について考える日」や人権週間、日ごろの道徳指導等がいじめについて学年に応じた指導を行った。いじめアンケートでも丁寧に聞き取り、対応を行ってきた。その結果、令和6年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は88.9%で、目標を達成することができた。
- 令和6年度の校内調査において、不登校児童の在籍比率が8.38%であり、前年度より減少させるという目標を達成できた。しかし、不登校児童に対して、担任や担当だけでは改善が見られない家庭もある。
- 令和6年度の校内調査において、今年度の不登校児童の改善の割合が67%であり、前年度40%より増加させるという目標を達成できた。家庭との協力だけでなく役所や医療、デイサービスなどの関係諸機関との連携により改善が見られたケースが多くある。

学校の年度目標

- 令和6年度の校内調査の教育アンケート「楽しく学校に通っている」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合は88.8%であり、目標を達成できなかった。しかし、90%近くの児童が楽しく学校に通えている。
- 令和6年度の校内調査の教育アンケート「学校のきまりを守っている」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合は90.6%であり、目標を達成できなかった。各学級で様々な取り組みを進める中で学校の決まりについては一定理解している児童が多く、逸脱行動をとる児童は少ない。しかし、染髪や持ち物、ボール遊びなど、ルールの徹底が十分とは言えないところもある。
- 令和6年度の校内調査の教育アンケート「相手の気持ちを考えて行動できる」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合は84.7%であり、目標を達成できた。

「取組内容」

取組①

- (1) ・計画通り進めることができた。
 - ・道徳においては学年の発達段階に合わせて学習し、物事を多面的、多角的に考えられるように実施した。
- (2) ・計画通り進めることができた。
 - ・平和学習、特別支援理解教育(コーディネーターによる発達障がい理解教育)、障がい者支援施設赤おに作業所との交流、各学年民族講師による課内実践に取り組むことができた。
 - ・民族学級発表会では、全学年の課内実践の成果を発表することができた。
 - ・WCCの活動についても全学年そろっての学習を行った。年3回外部講師を招いて「中国」や「フィリピン」の国について学習することができた。
 - ・夏休みには平和集会を行い、各学年の学習を発表し、他学年に伝えることができた。
- (3) ・指導計画をもとに、「ひと・いのち」等を活用することができた。

取組②

- ・年3回の強調週間を設定した。
- ・グリーティングカードを活用し、92%の児童が、「あいさつができた」と回答する結果となった。児童会によるあいさつ活動によって、しっかりとあいさつを返す児童が増えたことも要因といえる。
- ・強調週間の期間だけではなく、自分から進んであいさつができる児童が増え、来校者に対してもあいさつできる児童が増えてきている。

取組③

- ・全学年集合し、学校行事、児童会活動、集会活動などを複数回実施することができた。しかし、学年によっては、発表の場が少なく活動の差がある。

取組④

- (1) 各学年、出前授業や体験学習を行うことができた。しかし、カリキュラムに沿った時期と体験がずれることもあった。
- (2) 全学年、体験活動を実施することができ、全校児童でも芸術活動を実施することができた。林間学習(5年)、修学旅行(6年)、遠足・運動会・作品展(全学年)、サイエンスショー(全)、社会見学(3年・車いす体験、あべのタスカル)、社会見学(4年・科学館、浄水場見学)、社会見学(5年・コリアタウン)、社会見学(6年・ピースおおさか)、スポーツ交歓会(6年) 職業体験(6年・キッサニア)

取組⑤

- ・校内教育アンケート「楽しく学校に通っている」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合は88.8%で92%以上にすることはできなかった。しかし、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携を深め、不登校児童だけでなく、様々な課題を抱える子どもたちに寄り添い、支援することができた。

取組⑥

- ・子どもたちへの様々な取り組みの結果、少しではあるが不登校児童の在籍比率を前年度より減少させることができた。しかし、新たに不登校(予備軍含む)になった児童が5名いる。

次年度への改善点

全市共通目標（小学校）

- いじめについては、今後も継続して指導を行っていく。また、アンケート項目の「どちらかといえばそう思わない」「思わない」と回答する児童が複数名いる。こういった児童に対して、個別に声をかけ、話を聞き丁寧な指導を行っていく必要がある。
- 不登校児童に対して、担任、担当だけではなく小チームを作ったり、ケース会議を開いたりなどして、学校全体で不登校対策を行っていく必要がある。また、役所や医療、デイサービスを絡めた対応に関しても、更に充実したものにするために話し合いの場を持ち、連携を図り、心的ケアや不登校の未然防止にも努めていきたい。

学校の年度目標

- 今後も継続した指導を行っていく。どの項目においても、概ね90%に迫る数値になっている。指標の数値をあげることだけにこだわらず、下げないためにできることを考えたり、年度目標を見直し、「自分には、よいところがあると思いますか」等の項目に変えたりしていくことも検討していく。

「取組内容」

取組①

- ・年間計画に沿った道徳の授業や課内実践、人権教育などを通して、今後も命や人権の尊さについて指導を継続していく。また、学年の実態に合った「ひと・いのち」等の活用を進めていくために、保管場所や活用しやすい教材についてデータを残し共有していきたい。

取組②

- ・グリーティングカードの活用の仕方、シールの配り方について、今後様々な対応が考えられる。教師に対してのあいさつだけではなく、友だち同士、来校者、見守り隊の方々などに対してあいさつができるよう、取り組みを進めていきたい。また、子どもたちからもアイデアを出しあい、児童主体の活動になるようにしていくことも今後の活動の中に取り入れていきたい。

取組③④

- ・今後も児童にとって有意義な時間になるように行事の精査や検討を行い、無理のない範囲で実施できるように取り組んでいく必要がある。さらに、各教科や学年の年間指導計画とリンクした取り組みになるよう、前年度からの引継ぎを行っていく。

取組⑤

- ・「心の天気」や「相談機能」だけではなく、引き続き毎月の「生活指導・人権部会」や、学年部会等で児童の環境や様子の変化を話し合う場を設け、共有できるようにしていく。また、SCやSSWとの連携を図り、途切れることのない継続した指導につなげていきたい。

取組⑥

- ・全市共通目標の不登校の記述と同じ。

大阪市立矢田北小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <p>○令和6年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を <u>40%以上</u>にする。 R4 32.0% ⇒ R5 42.5% (+10.5) ⇒ R6 47.8% (+5.3) R6年度 3年: 62.5% 4年: 50% 5年 38.1% 6年: 40.7%</p> <p>○令和6年度の小学校学力経年調査における国語及び算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より <u>0.05ポイント向上</u>させる。 R4 未達成⇒ R5 達成⇒ R6 未達成</p> <p>○令和6年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を <u>80%以上</u>にする。 R4 70.4% ⇒ R5 69.7% (-0.07) ⇒ R6 76.4% (+6.7%) R6年度 3年: 91.7% 4年: 64.2% 5年 90.5% 6年: 59.2%</p> <p>○令和6年度の小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を <u>60%以上</u>にする。 R4 49.1% ⇒ R5 80.8% (+31.7) ⇒ R6 75.5% (-5.3) R6年度 3年: 91.6% 4年: 67.9% 5年 76.2% 6年: 66.6%</p> <p>○令和6年度の小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を <u>75%以上</u>にする。 R4 73.5% ⇒ R5 69.7% (-3.8) ⇒ R6 71.8% (+2.1) R6年度 3年: 79.2% 4年: 78.6% 5年 66.7% 6年: 63%</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○令和6年度の小学校学力経年調査において、国語と算数の全 24 観点のうち、<u>10 観点</u>が大阪市の平均を上回るようにする。 R4 8 観点 ⇒ R5 6 観点 (-2) ⇒ R6 13 観点</p> <p>○教育アンケートの「外で遊んだり、運動したりすることが好きである」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合を <u>90%以上</u>にする。 R4 91.9% ⇒ R5 89.0% (-2.9) ⇒ R6 83.2%</p> <p>○「健康週間」を実施し、健康アンケート「せっけんで手を洗った」「ぶくぶくうがい」「安全に過ごす」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合を1学期のアンケートの結果より <u>2%向上</u>させる。 R5年度 1学期 94.7% ⇒ 2学期 95.1% (+0.4) R6年度 1学期 90.9% ⇒ 2学期 91.4% (+0.5)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 算数科を研究教科とし、全学年で授業研究および協議会を実施する。また、教職員の一人一授業を実施する。 課題に向き合う力の定着、自分の考えを表現する力をつけるための指導法についての研究を推進する。 ポジティブ行動支援を意識した授業づくりも進めていく。 <p style="text-align: right;">(言語活動の充実(思考力・判断力・表現力の育成))</p>	A
<p>指標 ・各学年 <u>1回以上</u>の研究授業、討議会の実施、外部講師による全体研修会を <u>5回以上</u>実施する。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力向上】</p> <p>学力向上の時間を設定し、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。</p> <p style="text-align: right;">(「主体的・対話的で深い学び」の推進・個別支援の充実)</p>	B
<p>指標 ・朝に <u>10分間</u>の矢田北タイムを設定し、漢字タイムや読書タイム、計算タイムを実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習支援ツール navima (ナビマ) やスタディサプリの活用を進める。 <p style="text-align: center;"><u>週1回以上</u>取り組む。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力向上】</p> <p>家庭学習に取り組む児童を増やすための工夫を行う。</p> <p style="text-align: right;">(「主体的・対話的で深い学び」の推進・個別支援の充実)</p>	B
<p>指標 ・低、中、高学年向けの家庭学習の手引きを懇談会等で活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日記学習や自主学習などの家庭学習を、<u>週1回以上</u>取り組む。 	
<p>取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力向上】</p> <p>全校で外国語教育を推進し、コミュニケーション能力をつける。(英語教育の強化)</p>	B
<p>指標 ・外国語のモジュール活動 (<u>10分×2回</u>)を設定し、全学年で外国語活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内研修会を年 <u>1回以上</u>実施し、効果的な授業実践を行う。 	
<p>取組内容⑤【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力向上】</p> <p>校内の自然環境を整備するとともに、効果的な観察・実験を行う。全校で理科教育を推進し、科学的な思考力・判断力・表現力等の育成をする。</p> <p style="text-align: right;">(理数教育の充実)</p>	B
<p>指標 ・経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を <u>80%以上</u>にする。</p>	
<p>取組内容⑥【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>体育科の授業や体育的行事を通して、運動する喜びを実感させる。また、児童が運動することが楽しくなるような環境整備を進める。</p> <p style="text-align: right;">(体力・運動能力向上のための取組の推進)</p>	A
<p>指標 ・なわとび集会やランランタイム等、全校児童が楽しく参加できる体育的行事を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> スポーツ「夢・事業」など、外部講師を招いた体育授業を年 <u>2回以上</u>行い、生涯スポーツへつなげる。 	

取組内容⑦【基本的な方向5 健やかな体の育成】

健康な身体をつくるために、規則正しい生活習慣を身につける。

(虫歯の減少、けがの防止、手洗いうがいの習慣化)

(健康教育・食育の推進)

指標 ・給食後の「ぶくぶくうがい」や「歯」に関する授業の実施、歯科受診の啓蒙等を進める。健康アンケートを実施し、「ぶくぶくうがい」に関する項目について肯定的に答える児童の割合を1学期の結果よりも**向上**させる。

R4 44% (34人) ⇒ R5 16% (24人) (-28) ⇒ R6 **23.4% (38人) (+14人)** 虫歯率

R6 1学期 81.4% ⇒ 2学期 82.9% (+1.5) ぶくぶくうがい

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

全市共通目標(小学校)

- 令和6年度の小学校学力経年調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的に答える児童の割合は、47.8%であったため指標を超えて達成することができた。児童が考えを深めたり、広げたりするときに、教師がその考えに適切なフィードバックを与えることで、考えを深めたり、広げたりすることにつながった。普段から行うことで、割合が大きく向上したことにつながったのではないかと考えられる。
- 令和6年度の小学校学力経年調査における平均正答率を前年度よりいずれの学年も0.05ポイント向上させることは達成できなかった。算数に関しては指標を大きく上回って達成している学年がある。一方、国語では達成している学年は少なく、国語の学力向上が課題である。
- 令和6年度の小学校学力経年調査の「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に答える児童の割合は76.4%であったため、指標を達成することはできなかったが、前年度より向上することができ、一部の学年においては、指標を大きく超えていた。指標を下回った学年について、小学校学力経年調査における理科の他の項目を見ると、観察や実験が好きな児童の割合はとても多かったが、理科の内容がよくわかるという項目が低くなっていた。
- 令和6年度の小学校学力経年調査の「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に答える児童の割合は75.5%であり、どの学年も指標を超えて達成することができた。小学校学力経年調査における外国語(英語)の他の項目についても、肯定的に回答する児童が全学年で約80%であったため、このような結果になったと考えられる。
- 令和6年度の小学校学力経年調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的に答える児童の割合は71.8%であったため、指標を達成することはできなかったが、前年度より向上することができた。学年が上がるにつれて最も肯定的な「好き」と答える児童の割合が少なくなっている。

学校の年度目標

- 令和6年度の小学校学力経年調査の国語と算数の全24観点のうち、10観点が大阪市の平均を上回るに対して、13観点であったため、指標を達成することができた。特に算数においては8観点が大阪市の平均を上回ることができた。
- 教育アンケートの「外で遊んだり、運動したりすることが好きである」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合は83.2%であったため、指標を達成することはできなかった。前年度と比べても大きく減少している。
- 健康アンケートの「せっけんで手を洗った」「ぶくぶくうがい」「安全に過ごす」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合は、1学期から1.5%向上であったため、指標を達成することはできなかったが、1学期の結果より向上することができた。

「取組内容」

取組①

- ・各学年計画通りに研究授業を実施することができた。教職員の一人一授業は3学期にまとまっていたので、前もって日程を決めておく必要があった。
- ・外部講師による全体研修会は、討議会をはじめ、PBS研修やHPQU研修を通して指標以上に実施することができた。

取組②

- ・漢字検定に向けて、自身の学力に合わせてプリントに取り組み、学習することができた。しかし、計算タイムは各学年部の裁量に任されているため、どのようなプリントを準備するのか、学習した成果はどのようにわかるのか、などの課題が出てきた。
- ・ナビマやスタディサプリの活用は週に一回以上はできているが、それが実際に学力につながっているのかはわからない。
- ・空き時間に読書貯金をして読書通帳の活用ができた。

取組③

- ・家庭学習の手引きを懇談会で活用することができた。
- ・日記学習や自主学習は、それぞれの学年の実態に応じて週1回以上実施することができた。

取組④

- ・ハッピータイムを通して計画通りに実施できた。歌や復唱をすることでどのような成果が得られているのか、見えないことが課題である。
- ・計画通り研修会を実施することができた。

取組⑤

- ・経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合は76%で80%以上にはできなかった。しかし、理科補助員との協力によって、これまでより効果的な観察・実験の計画を練ることができた。

取組⑥

- ・なわとび週間とランランタイムを計画通り実施し、児童は楽しく運動に参加することができていた。
- ・外部講師による体育授業は、バレーボールやバドミントン、テコンドー、ボッチャなど多くの授業を実施することができた。

取組⑦

- ・ぶくぶくうがいの結果は1学期から向上した。(1学期 81.4% ⇒ 2学期 82.9% (+1.5))
ぶくぶくうがいだけでは、虫歯の予防はできないので、虫歯予防に関する活動が必要である。

次年度への改善点

全市共通目標(小学校)

- 引き続き継続して、普段の授業の中でフィードバックを与え、児童が友達と考えを深めたり、広げたりすることができるようにしていく。
- 算数においては、大きくポイントが向上しているが、国語のポイントが下がっているので、国語の力もつけていくようにしていきたい。
- 理科の学習については、よくわかる授業をすることで、理科の勉強が好きな児童を増やしていきたい。そのためにも理科研修の充実や、専門的知識を持った教員の配置をしていきたい。
- 外国語(英語)については、外国語(英語)の項目が全体的に約80%の水準に達しているため、今後も継続して外国語(英語)教育の充実をしていく。
- 運動やスポーツをすることについては、高学年になるにつれて肯定的な回答をする児童が減少しているため、高学年の数値を上げていく。そのためには、低学年から基礎的な体の使い方を身につけることや、高学年でも「できた」と楽しめるような授業の工夫をしていきたい。

学校の年度目標

- 大阪市の平均を上回った13観点のうち、国語は5観点であったため、国語の観点別正答率を上げられるようにしていきたい。
- なわとび週間やランランタイムほど大きな体育的行事ではないが、暑い日も寒い日も、児童が外に出てみたくなるような小イベントを開催することで、外で遊んだり、運動したりすることが好きな児童を増やしていきたい。
- 健康アンケートの各項目に肯定的に答える児童を2%向上させることはできなかったが、1.5%の向上はできたので、引き続き集会や放送等を活用して児童に周知していく。

「取組内容」

取組①

- ・一人一授業は、直前になって日程を決めないように、あらかじめ日程を決めて行えるようにしていく。

取組②

- ・計算タイムは、「さんチャレ」などの基本のプリントを実施し、実態に応じたプリントを各学年部で実施していき、計算タイムの充実を図っていく。

取組③

- ・学習の手引きの活用は今後も継続して実施していく。
- ・日記学習や自主学習の形式は各学年の実態に応じて、柔軟に決め、今後も継続して取り組んでいく。

取組④

- ・歌や復唱をすることでどのような力がついたのか、成果をみえるようにしていきたい。
- ・ワークを使った「書く」活動も取り入れていきたい。

取組⑤

- ・理科の研修を実施し、経験の浅い教員でも充実した授業を実施できるようにしていきたい。また、より専門的な教員を配置して、理科教育の充実を目指していきたい。

取組⑥

- ・今後も継続して取り組んでいく。外部講師による出前授業は、学校行事との重なりに留意して実施していく。

取組⑦

- ・ぶくぶくうがいだけでは虫歯の予防には繋がりにくいため、歯ブラシの持参や歯磨き週間の実施など、虫歯予防に関する取り組みを行えるようにしたい。

大阪市立矢田北小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
------	------

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標(小学校)

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く) R6→7.0%
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を60%以上にする。(R6 61.9%)
※基準1・・・1ヵ月の時間外勤務が 45時間以下
・・・1年間の時間外勤務が360時間以下

学校の年度目標

- 学習者用端末でスクールライフノートの「心の天気」を必ず1日1回以上入力し、児童の心の状態や日々の生活の状態を可視化し、児童理解を深め、指導に生かす。(1年生は、2学期から、2～6年生は、5月から)
入力率を85%以上にする。
R4 入力率 71.9% ⇒ R5 入力率 80.9% (+9.0) ⇒R6 入力率 72.9% (-9.0)
- 令和6年度の校内調査の学校アンケート「学校や家ですすんで読書をしている」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合を60%以上にする。
R4 54.8% ⇒ R5 59.3% (+4.1) ⇒R6 60.1% (+0.8)
- 令和6年度の校内調査の教育アンケート「学校は、家庭や地域と連携・協働した教育を推進している。」の項目に対して、肯定的に答える保護者の割合を85%以上にする。
R4 93.4% ⇒ R5 87.4% (-6.0) ⇒R6 95.1% (+7.7)

B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

進捗
状況

取組内容①【基本的な方向6、教育DX(デジタルトランスフォーメーションの推進)】

ICTを活用した教育やプログラミング教育に取り組み、児童の思考力・表現力を育てる。
(ICTを活用した教育の推進)

B

<p>指標 ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く) R6 7.0%</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向6、教育DX(デジタルトランスフォーメーションの推進)】 スクールライフノートの「心の天気」やデジタルドリル・スタディサプリも活用し、児童のタブレット使用率を向上させる。 (ICTを活用した教育の推進) 指標 ・「心の天気」入力率を <u>85%以上</u> とする。(R4 71.9→R5 80.9%→R6 72.9%)</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 水(月2回)・金曜日を「ゆとりの日」に設定し、原則17:30退勤を実施する。(働き方改革の推進) 指標 ・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間上限に関する基準1を満たす教職員の割合を60%以上にする。(R5 55.0%→R6 61.9%)</p>	B
<p>取組内容④【基本的な方向8、生涯学習の支援】 図書館開放等、学校司書や読み聞かせボランティアとの連携のもと、意欲をもって読書に親しむ環境を整える。(読書通帳や読み聞かせ会等の読書の楽しさを伝える取り組みを進める。(学校図書館の活性化)) 指標 ・図書館や「ほっとスペース」の利用を増やし、令和6年度の校内調査の学校教育アンケート「学校や家ですすんで読書をしている」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合を <u>60%以上</u> にする。(R6 60.1%)</p>	B
<p>取組内容⑤【基本的な方向9、家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 ・学校・学年だよりやホームページ等の活用、定期的な家庭連絡等で児童の活動や学校の様子を伝え、連携を深める。 ・地域行事の交流活動を通して、自他を思いやる気持ちを育てる。 ・やたきたまつりの出店や茶道体験等、地域人材と連携し、交流を深める。(地域学校協働活動の推進) 指標 ・令和6年度の校内調査の教育アンケート「学校は、家庭や地域と連携・協働した教育を推進している。」の項目に対して、肯定的に答える保護者の割合を <u>85%以上</u> にする。(R5 87.4%→R6 95.1%)</p>	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>全市共通目標(小学校)</p> <p>○スタディサプリやナビマの活用により、普段の学習においてタブレットの使用率は前年と比較しても上がってきている。今年度は平均使用率が72%となり、目標にも届く勢いで使用率は増えているが、80%という目標は大幅に達成することはできなかった。</p> <p>○スクールサポートスタッフの設置により、簡易な業務については減少させることができた。また、ゆとりの日の設置により、教員一人一人の意識の改善もつながってきた。し</p>	

かし、現状まだまだ目標の数値は達成できていない。

学校の年度目標

- 学校全体としての目標の数値には達成できていない（72.9%）が、年度途中の担任変更があったことが要因として考えられる（2,4年生）。事実、担任変更のなかった4学年の入力率は87.7%である。
- 読書通帳の活用や、学校司書との連携により、目標値を達成することができた。（60.1%）
- 地域行事や交流活動が盛んに行われ、学校HP等で普段の様子等も伝えることができた。（95.1%）

「取組内容」

取組①

- ・授業日において、児童の8割以上が学習端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にするという項目に対して、7.0%という結果となり達成できなかった。本校は少人数校であり、欠席児童が少し多いだけで、目標を下回ってしまうのが現状である。加えて、登校に課題のある児童も多く、欠席が多いという課題もある。本年度は、スタディサプリの導入やナビマの活用、SKYメニューの使用などにより、児童のタブレット使用率は前年度よりも増加したが、目標には大幅に届かなかった。

取組②

- ・心の天気の入力率を85%以上にするという項目に対して、72.9%という結果となり、目標値には達成することができなかった。担任変更などがあった学年（2,4年）が入力率を落としていることも要因としてあげられる。（1,3,5,6年の入力率は87.7%）

取組③

- ・学校園における働き方改革推進プランに掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を60%以上にするという項目に対して、61.9%という結果となり、達成することができた。ゆとりの日の設置や、スクールサポートスタッフの設置により、教員一人一人の勤務時間の意識は、少しずつ改善してきている。

取組④

- ・教育アンケート「学校や家ですすんで読書をしている」の項目の結果は、60.1%となり、目標を達成することができた。読書通帳の取り組みや、学校司書との連携が達成の要因として考えられるので、次年度以降も継続していく。

取組⑤

- ・教育アンケート「学校は、家庭や地域と連携・協働した教育を推進している」の項目に対して、結果は95.1%となり、達成することができた。学校HP等で普段

の様子配信を行い、PTA や地域との連携が達成の要因として考えられるので、次年度以降も継続していく必要がある。

次年度への改善点

全市共通目標（小学校）

○大幅に達成できていない要因としては、欠席児童も人数にカウントされていることがあげられる。また、使用しているのにも関わらず、数値に反映されていないのではという声もあった。数値として反映される明確な基準を全体で把握する必要がある。また、ICT を使った授業の推進が本年度はあまりできなかったため、次年度以降は研修なども適宜行っていく。

○ゆとりの日の設置は計画的に行われ、勤務時間に対する教職員の意識は少しずつ改善してきているが、職員の業務量の減少にはつながっておらず、持ち帰り仕事をしている職員も少なくない。また、地域行事との兼ね合いで、ゆとりの日の設定が難しい日もあったため、週によっては変更していくなどの柔軟な対応が必要である。

学校の年度目標

○心の天気の入力は習慣づいてきている学年と、そうでない学年が顕著に表れた1年であった。できている学年は、担任による声掛けが盛んに行われていた反面、負担が大きかったという声もあった。どの学年も確実に入力できるシステム作りが必要である。

○ほっとスペースの活用がどうしてもうまくいっていない。児童が通らない場所にあるので、次年度以降場所の変更をしていき、もっと活用させる必要がある。

○学校 HP の更新や、地域、PTA との連携、関係諸機関との連携を継続して行っていく。

「取組内容」

取組①

- ・ ICT は環境整備がとても大変である。児童の活用の妨げになることもあるので、迅速に対応できる環境を提供してほしい。（ICT 支援員の常設、修理・交換対応の迅速化など）

取組②

- ・ どの学年も入力できるように、学級に心の天気チェックタイムなどを次年度以降も受けていく必要がある。

取組③

- ・ 人手不足という現状があるので、教員の業務量の減少につながる取り組みや対策も必要である。

取組④

- ・ ほっとスペースの移動を行い、より児童が集まる場所を作っていく。

取組⑤

- ・ 次年度以降 HP の活用、地域や保護者との連携を継続して取り組んでいく。